



サル山の秘密を探れ! 2016



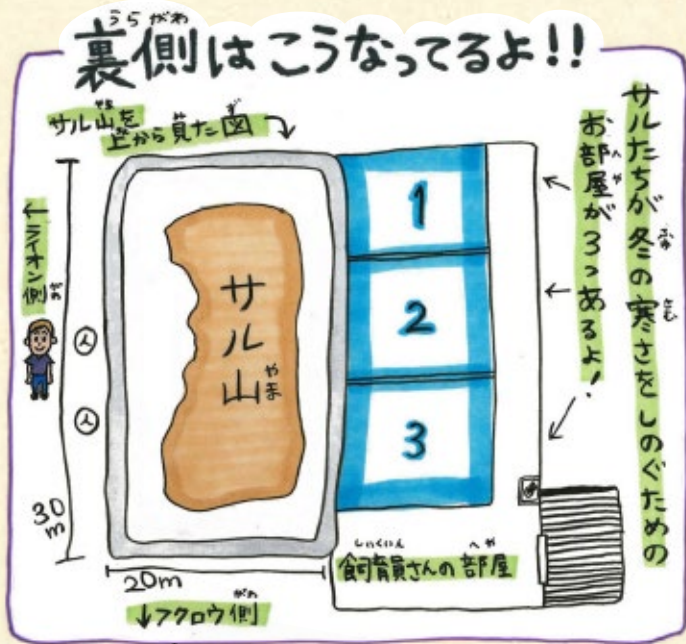
完成当初のサル山は現在のように自然木は入っていない状態でした。現在はサル山の前にサルスベリの木を植えたり、エサやり体験コーナーが設置されているなどの違いがあります。

? サル山の中はどうなってるの?



サル山の中には箱状のものが入っていて、その上をコンクリートなどでコーティングしてできているのだ!!

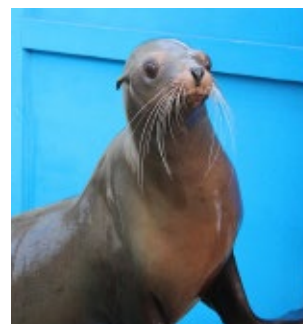
どうしてサルはにげないの?



飼育レポート

アシカの受け入れ

飼育展示担当 千葉 可奈子



2015年1月。長年、大森山動物園で飼育していたメスアシカのスマコが他界し、マヤの新しいお嫁さんを探すことになりました。

とてもラッキーなことに、お嫁さんはすぐに見つかりました。マヤの新しいお嫁さんは愛媛県のとべ動物園から来ることになりました。お嫁さんの名前は「アイラ」です。

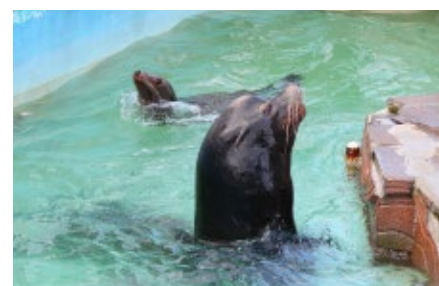
お嫁さんが決まり、喜んでばかりもいられません。アイラ受け入れのための準備作業が始まりました。初めて顔を合わせるもの同士、相性が良ければすんなり同居できるのかもしれませんが、せっかく来たお嫁さんとケンカしてお互いにケガでもしたら大変です。そのため、プールでもお見合いができるように、プールの途中に仕切りを設置することにしました。

いきなり見知らぬ物体が現れては、マヤがビックリしてしまうことも考え、プールの仕切り設置作業は一気には進めず、プール清掃時に落水するたびに少しずつ増設していきました。

アイラ受け入れを2週間後に控え、プールの仕切りが完成しました。

アイラが秋田に到着したのは12月1日。前日の11月30日にとべ動物園でケージに入り、トラックに乗って約1日をかけて、愛媛県からはるばる大森山までやって来ました。丸い大きな瞳が特徴的なかわいらしいお嫁さんです。到着した当日の夕方にすぐにアジを数匹食べ、翌々日にはプールに出て元気よく泳いでいました。お見合い期間を経て約1ヶ月。旦那さんのマヤとの相性も悪くはないようで、こちらの予想よりはるかに早く同居することができました。現在、2頭は仲良く日中はプールで泳ぎ、夜は寝室で寝ています。

年下のお嫁さんですが、アイラの方がちょっと強いようで、旦那のマヤは、早くもお嫁さんの尻に敷かれそうな勢いです。意外と相性の良さそうな2頭なので、2頭の子どもが見られる日はそう遠くないかもしれません。



動物病院から

ふれあい広場の飼育管理

獣医師 丸山 礼子



ふれあい広場にはウサギ、モルモット、ヨツユビハリネズミをはじめ、アヒルやニワトリ等の鳥類、カメやヘビ等の爬虫類、ミニブタ、ヤギ、ヒツジ、ポニー等の家畜等、計18種がいます。

診療は飼育数が多いためかウサギ、モルモットが中心です。群れで飼育している個体が多く、飼育管理する上で感染症やストレスのコントロールの難しさを感じています。

寒い冬は、結膜炎や鼻炎が頻発し、一時期点眼している個体が常にいる状態でした。症状を繰り返す個体が多く、すっきりと治してあげられないのが悔しいところです。

咬傷もたまにあります。放っておくと膿んでしまうため、発見するとすぐに消毒処置をします。新しく同居させる個体がいるときは闘争が増えるため、担当は特に注意が必要となります。秋頃に担当が保温球の下で1匹だけいる個体を見つけ、調べてみると、体のあちこちに化膿した傷を負っていました。耳などと違い、傷が毛で覆われていたため発見が遅れてしまったと思われます。今では傷も治り元気なのですが、仲間のいる部屋に戻すと、またほかの個体に攻撃されてしまう恐れがあるため、個別収容を続けています。

ZOO information

広がりを見せる餌の支援



草木谷を守る会からの稲わら寄贈



大館市立南小学校からのさつまいも寄贈

餌は、動物園で暮らす動物たちにとって、とても重要なものです。野菜、果物、クルミ、ヒマワリの種などさまざまな餌をお客さまからの善意でいただいています。初めは、動物園近隣や市内にお住まいのかたからの寄贈でしたが、最近では、市外、県外にお住まいのかたからも支援をいただき、大変ありがたく、うれしく思います。その中で、自らの活動と重ね合わせて餌の支援をして下さるかたがたもいます。

まず、石川の里・草木谷で里山保全と八郎湖の環境再生プロジェ

クトを実施している「草木谷を守る会」の皆さまから寄贈していただいている稲わらがあります。これは、プロジェクトで「ゾウさん堆肥」を利用したお米を作り、収穫後の稲わらを寄贈していただいているもので、その稲わらは、ゾウのオス「だいすけ」、メス「花子」の飼料として毎日少しずつ食べさせています。おかげさまで、2頭とも元気に暮らしています。

また、秋田県大館市立南小学校の「さつまいも夢プロジェクト」の取り組みにより、10月に100kgを超えるさつまいもを寄贈して

いただきました。この取り組みは、同校の全児童が動物園にプレゼントするため、自分たちでさつまいもの苗を植え、育て、収穫まで行うものです。子どもたちにさらに頑張ってもらうため、同校に行き講演会も行いました。3回に分けて来園した子どもたちには、自分たちで持って来たさつまいもを使ってサル山の餌やりや裏側探検、ウサギなどとのふれあいを楽しんでもらいました。今回の取り組みには、地域の婦人会などの団体からヒマワリの種のプレゼントもあり、餌支援の広がりを実感しています。